

福岡都市圏南部環境事業組合建設検討委員会
第9回建設専門部会 会議概要

1 .開催日時	平成20年9月9日(火) 9:45~11:30
2 .開催場所	福岡国際ホール16階 九重の間
3 .出席者	(正副部会長以外は五十音順) 松藤康司部会長、神野健二副部会長、嵐谷奎一委員、磯望委員、浦邊真郎委員 村山博俊委員
	オブザーバー 福岡市 計画課長、他2名 春日市 環境課係長 大野城市 リサイクル推進課長 他1名 太宰府市 環境課長 那珂川町 環境防災課長
4 .欠席者	包清博之委員、槇田裕之委員
5 .議 題	議題1 スケジュール(案)について 議題2 中間処理施設生活環境影響調査について 議題3 中間処理施設基本計画について

議題1 スケジュール(案)について
<p>【協議内容】</p> <p>今後のスケジュールとして、次の通り了承した。</p> <p>平成20年度は専門部会を第10回、第11回、第12回の3回開催し、中間処理施設基本計画に関する検討を行う。また、コミュニティー機能を視点とした他都市調査を行う。</p> <p>平成21年度から最終処分場についても、基本計画に関する専門的な項目の検討を行う。</p>

議題2 中間処理施設生活環境影響調査について
<p>【協議内容】</p> <p>福岡県環境影響評価条例の対象とならない施設規模であり、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく生活環境影響調査を行うだけでよいが、周辺環境に対して十分な配慮を行うため調査項目の拡充を行い、福岡県条例で定める調査項目と同等の内容を実施すべきである。</p> <p>調査項目内の「その他の化学物質(環境への負荷)」については、規則を詳細に検討のうえ対象とするか判断する。</p>

当該地域は下水道の供用地区ではあるが、水環境関連の項目についても現況の把握を行うべきである。

環境要素についての現況の把握は、将来工場由来か否か等の環境問題が生じた場合、その証明・説明責任を果たすために幅広く行うべきである。

議題3 中間処理施設基本計画について

【協議内容】

中間処理施設について、今後も施設配置、ごみ搬入車の動線、土木・建築・プラント等の基本的な計画の検討及びその他余熱利用、公害防止、コミュニティー機能計画等を検討していくが、このうち次の事項について協議した。

1 環境に関する基準値(案)について

現南部工場に起因する騒音(運転時・全炉停止時)と周辺地域に起因する騒音(自動車等)の現況把握を行うべきである。

現状把握として現南部工場の騒音測定結果を収集し、経年変化を把握することが必要である。当該地域は、現工場建設当時に比べると都市化が進んでおり、周辺地域の騒音レベルが高くなってきていると思われる。当時と現在の航空写真等による比較も活用したほうがよい。排ガス中の水銀と悪臭について、法規制はないが自主規制値を設定したほうがよい。

2 残渣物の種類や割合の把握方法について

メーカーの設計値はメーカーが作成した理想的な値で実態とは差があるため、不燃物の混入率など組合で計画するごみ質と近似している自治体の実績を採用することが妥当と判断する。

3 基数構成について

処理方式に関する意見書を平成20年2月に提出したが、敷地面積やコスト、運用面の問題から4基構成は検討から除外したものと判断していた。

国(環境省)の動向は、低炭素社会の実現に向け、廃棄物処理の分野でも温室効果ガス排出削減に取り組み、来年度は現状調査を行う予定である。このような中、当組合でも温室効果ガス排出の削減方策としての高効率発電を目指すべきであり、その観点からも、2基・3基しかなく、4基については検討の必要がないと判断する。

2基と3基の比較については、2基の方が発電効率は良いが、当組合ではごみ処理の運用上(搬入調整等)の課題があるため、建設検討委員会で行政的見地から判断されたい。

4 「ストーカ+灰溶融方式」の検討について

基数構成は2基又は3基と考えるが、この方式では溶融スラグのストックヤードが大きいので、3基構成でも敷地に入らない。

導入した自治体では、故障による稼働率の低下やスラグの品質が検査基準を下回り、リサイクルに出せないなど運営上の問題で苦心していると聞いている。

処理方式に関する意見書に述べたように、当初からストーカ式焼却方式に灰溶融炉を付加して導入することは推奨できない。